

2019 展覧会 & イベントスケジュール

3 月 1 日 (金) ~ 4 月 15 日 (月)

「火の山の物語～軽井沢文学にあらわれた浅間山の噴火・噴煙～」展

東日本大震災 (2011.3.11) から 8 年を迎えるのを機に、浅間山の噴火活動に関連する、文学にあらわれた噴火や噴煙を描写した作品を、肉筆資料、著作、初出紙誌など文学関連資料約 200 点で紹介いたします。全国文学館協議会・第 7 回共同展示 (「3.11 文学館からのメッセージ」) に 7 年連続で参加したものです。

4/16,17,18 休館

4 月 19 日 (金) ~ 7 月 15 日 (月・祝)

「ことばの花束～軽井沢を愛した文学者・芸術家たちスペシャル～」展

明治以降に軽井沢を訪れ、創作活動を行った文学者・芸術家の作品を、肉筆資料、著作、初出紙誌、絵画など約 200 点で紹介する一昨年、昨年に続く第三弾。軽井沢を舞台に描いた詩・小説・戯曲・俳句・短歌・随筆などを網羅的に紹介。今年が没後 20 年の作家・辻邦生をコーナー展示。軽井沢の豊穡な文学の歩みを一望できます。

7/16,17,18,19 休館

7 月 20 日 (土) ~ 10 月 6 日 (日)

夏季特別展「加賀乙彦展～精神世界の光と闇を求めて～」(仮)

『フランドルの冬』『帰らざる夏』『宣告』『湿原』など、精神世界の闇を深く見つめた長編小説を発表し続けている作家・加賀乙彦の文業を辿る初の展覧会。自らの八十余年の歩みを注いだ大河小説『永遠の都』(芸術選奨文部大臣賞)と『雲の都』(毎日出版文化賞)が 2012 年に完結し、今年は『永遠の都』ロシア語版も刊行されます。加賀は現在 90 歳。軽井沢に仕事を構えて 45 年になります。1998 年～軽井沢高原文庫館長。

10/7,8,9 休館

10 月 10 日 (木) ~ 11 月 30 日 (土)

「四季派の詩人たち～立原道造を中心に～」(予定)

雑誌「四季」(第一次～第三次)に集った多くの詩人・作家たちとその作品を総合的に紹介します。とりわけ今年が没後 80 年を迎える立原道造の詩稿、パステル画、建築スケッチ、建築模型、著作などを展示します。

12/1- 休館

<イベント>

- 高原文庫の会 8 月 3 日 (土) 13 時～「加賀乙彦あれこれー文学者として、精神科医として伝えたいことー」
講師：加賀乙彦／エッセイ朗読：軽井沢演劇部メンバー 会場：高原文庫中庭
(90 歳の加賀乙彦館長を囲んで、軽井沢演劇部メンバーによるエッセイの朗読とおしゃべり)
- 高原の文学サロン 8 月 24 日 (土) 14 時～ 講師：亀山郁夫 (ロシア文学者・名古屋外国語大学学長)
「ドストエフスキーと加賀乙彦」(仮) 会場：高原文庫中庭
- 朗読会 朗読劇『永遠の都』-昭和 20 年 8 月- 第六章「炎都」第七章「異郷」より
(予約受付開始) 8/3 (土)、4 (日) 各 13 時～、17 時～ (計 4 回) 会場：旧朝吹山荘「睡鳩荘」
(5/1 日 9 時～) (※但し 8/3 (土) 13 時の部は「高原文庫の会」公演)
出演：矢代朝子、山本芳樹 (Studio Life)、笠原浩夫 (Studio Life) ※軽井沢演劇部
- 文学散歩 ①新緑の中軽井沢を歩く 5/18 (土) 13 時～、②晩秋の追分を歩く 10/26 (土) 13 時～
- 辻邦生山荘見学会 ①6/1 (土) 13 時～ (予約受付 4/1 日 9 時～)、②9/7 (土) 13 時～、③10/5 (土) 13 時～ (計 3 回)
- 軽井沢再発見講座 6/14 (金) 13 時～ 講師：大藤敏行 (副館長) 「川端康成と軽井沢」
会場：堀辰雄 1412 番山荘